

B-2 学級活動での取り組み

(1) 指導方法の工夫改善について

①話し合い活動の充実を図る

特別活動の中でも、とりわけ、学級活動の内容(1)は、子どもたちが強い関心をもって積極的に取り組もうとする活動である。しかも、そこで養われる自発的・自治的な態度は、将来子どもたちが社会生活を営む上で必要な「生きる力」に直接つながるものである。そこで、学級活動の話し合い活動において、互いの意見を尊重しながら見通しをもって話し合い活動を進める力を子どもたち一人一人に付けていきたいと考える。そのために、担任が、学級集団全体の高まりを評価するとともに、子どもたち一人一人の力について評価、分析し、評価したことを一人一人の子どもに返すことによって指導を深める工夫を目指そうと考えた。そして、子どもたちの話し合いの力や学級への所属感、連帯感を高め、より自主的・実践的な態度を育てたいと考えた。

②計画委員会（学級会係）への指導の重視（司会の仕方カードの利用）

円滑な話し合い活動を進めるためには、学級会の計画委員会（本学級では子ども達は学級会係としている）が、見通しを持たせる為に、「議題集め」から「話し合い」に至るまでの流れを全員に確認した。また、司会の仕方カードを司会者が利用できるよう用意した。このカードは、今年度、特別活動指導委員会で検討し、より円滑に話し合いを進められるように委員会活動、クラブ活動、学級活動で利用しようとしたものである。できるだけ多くの意見を引き出し、意見を比較したり統合したりし、まとめて決定に導くという司会者の役割についても、子どもたちが具体的にイメージできるようにした。

司会の仕方（5・6年用）

はじめの言葉	これから第（ ）回学級会を始めます。
議題を確認する	今日の議題は（ ）です。 提案理由を提案者の（ ）さんに説明してもらいます。 提案について賛同はありませんか。
話し合う	では、話し合いに入ります。 （ ）について意見を言ってください。 今出されている意見は（ ）ですが、他の考えはありませんか。 出された意見に賛成・反対はありませんか。 【意見が出ない場合】 となりの人と話し合ってください。時間は（ ）分です。 意見が出ないので指名します。 （ ）さんの意見を聞かせてください。
決める	{ } についての意見が多いので、{ } にしてもいいですか。 【決まらない場合】 多数決をとります。（ ）回手をあげてください。
決まったことを確認する	今日決まったことは、（ ）です。

③議題選定の基準の明確化

これまで、議題選定の判断基準が子どもたちにとっては分かりにくいようであった。そこで、議題選定のよりどころとするカードを子どもたちに持たせ、判断しやすいようにした。議題選定について十分に話し合うことは、学級活動の話し合いに対する見通しをもちやすくすることにも役立つと考えた。カードに示し

- ① 学級や学校生活を楽しくよりよいものにするもので、学級全体に関わる問題か
- ② みんなの力で解決できるか（プライバシーに関わる問題や危険を伴うこと、行政上の問題を省く）
- ③ 今すぐ話し合うべき議題か、もう少し後でもよい議題か
- ④ 学級活動の時間に解決すべき問題か（朝の会や帰りの会の利用で話し合いができないか）

た議題選定基準は、以下の4点である。

④係り活動の取り組み

学級内での係り活動は、学級の中の仕事をみんなで分担することにより、協力してよりよい学級を作ろうと目標の元に1年生からほとんどの学級で行っている。本学級では、学級での係活動を、日常の学級活動が円滑に進むために毎日必要な当番的な仕事（健康調べ・黒板消し・配達・予定など）と、学級活動を楽しいものにするを目的とした係活動（学級会係・お誕生日会・遊びなど）に分けた。当番的な仕事では、責任感を持って取り組むことを目標に置いている。学級活動を楽しいものにするを目的とした係活動では、「企画していく力・問題を解決していこうとする姿勢」

を目標にしている。このように、係活動を2つに分け、それぞれのねらいを明確にすることで、係り活動を機能的にし、児童自身の学級への所属感、連帯感を高め、より自主的・実践的な態度を育てたいと考えている。

(2) 評価の工夫改善について

①学級活動の評価規準の作成および評価の場面や指導の手立ての工夫

学級活動の評価については、各学年や学級で個別に考えていたため、学校として一貫性のある評価規準がない。そのために、子どもたちの所属学年が上がっても、見通しをもった指導の積み上げができていない。そのような反省点をふまえ、低・中・高学年とそれぞれの発達段階に応じて、目標を段階的に高めていけるように考え、表1に示すような話し合い活動の評価規準を設定しようと考えている。

②高学年における評価の場面、方法、指導の手立て

次に、作成した評価規準を基にして、評価の場面や方法、指導の手立てについて考えた。評価を次の指導に生かすことができるように、具体的な場面を考えながらまとめた。詳しい内容については、表2に示したとおりである。

③係り活動での自己評価と相互評価

6年生として学校全体をリードしていく立場にあることを常に意識し、またお互いの活動を分かり合える機会を持つために、朝の会・終わりの会で「今日の仕事」のコーナーを設ける。朝の会では、今日行う仕事を全体の前で話し自分自身への確認と、お互いの仕事を知ることが目的としている。帰りの会では、委員会や係活動の振り返りをする時間を設ける。係活動シートでの自分自身の振り返り（自己評価）に加え、子どもたちが感じていることを交流し合い（相互評価）、お互いの委員会活動や係活動の内容を知り、同じ苦勞や喜びを感じている友達に共感すること、また、活動への責任感や自主性・意欲を喚起することを目的としている。